

伝統再発見 語りじなの平家・地無し尺八きぬいと・白蘭きぬいとの箏

語りじなの平家



『平家物語』を語る音楽のことを「平家」といい、伴奏に用いる琵琶のことを「平家琵琶」という。『平家物語』は、鎌倉時代に盲目の琵琶法師によって語り始められ、室町時代には人々の人気を集めるようになる。そして、江戸時代になっても、古典音楽として、儀式的折に、あるいは優雅な稽古事として、演奏され続けた。それを担ったのは、地歌や箏曲の世界で活躍した盲人音楽家たちであった。明治維新以後、その伝統は各地で廃絶し、21世紀初頭には、名古屋の盲人箏曲家がただ一人伝えるのみとなってしまった。本公演では、この貴重な伝統の継承に取り組み、現在、内外で活躍している若手の地歌・箏曲演奏家3人による演奏をお聴きいただく。

源平の合戦を描く『平家物語』は多くの武将の活躍を語る。しかし、武将といえどもひとりの人間、弱さも欠点も持ち合わせており、単に勇ましいだけではなく、こうした側面をも生き生きと描きだすのが『平家物語』である。同土討ち寸前で怒りを顕わにする義経、劣勢の中で鎧が重いと弱音を吐く木曾義仲、今回は、そうした武士たちの内面の世界を、平家の音楽がどのように表現したのかをお聴きいただくと思う。(薦田治子)

曲目／平家《祇園精舎》 平家《木曾最期》 平家《逆櫓》

地無しじな尺八



今日の尺八は、管内は砥粉や石膏など硬質の素材を塗料に混ぜた「地」で成形された大音量の出る楽器である。近年は高度な設計手法も開発され、西洋楽器との合奏や大ホールでの演奏に適した特徴を持っている。一方、明治以前の尺八は、自然界の植物である竹1本ごと異なる管内の不均一な形状と振動の状態を見極め、様々な要素のバランスのうえに成り立つ楽器であり、楽器個々に唯一無二の特徴をもっている。この楽器を尺八家は現代の尺八と区別して「地無し」と呼ぶ。どちらにも優れた楽器はあるが、吹奏者、楽器製作者の志向性の面からみれば、前者は演奏家向き、後者は求道者向きと考えて良いように感じる。本コンサートでは、和楽器が西洋音楽の洗礼を受ける以前に、どのような魅力と今日的価値があるのかを掘り下げたい。それは国際的に高い関心を引く明治以前の美術、工芸品に比べ、現代の尺八家の多くが当時の音楽には高い関心を抱くにも関わらず、その同時代の楽器は単に骨董趣味的なものであるという意識が広がっているように思われるので、見方を変えればそうでもないということを証明する試みである。(志村禪保)

曲目／明暗真法流ひらさきいほうのきよく《紫鈴法曲》 明暗真法流たきおとし《瀧落》 明暗対山派たきおち《瀧落》

白蘭きぬいとの箏



八橋検校が学んだ筑紫箏曲の下地となったのは、中世に行われていた寺院雅楽と考えられている。当時、寺院の法要では、雅楽の《越天楽》に歌詞をつけて歌う「越天楽歌物」が行われていて、その伴奏が、雅楽というオーケストラから箏というシンプルな形に変わったと見ることができる。《菜路》第一歌は寺院雅楽との関わりを強く推測させる仏教的歌詞であり、《梅枝》第一歌は寺院の行事(延年)でも歌われた中世の流行歌を歌詞にしている。八橋検校の13曲の歌詞はほとんどが、『源氏物語』に取材したり古歌を引用したりして作られているが、筑紫箏曲から取り入れた歌詞(八橋検校のごく初期の曲)にはその成立過程をうかがわせる要素が残されている。

また今回は上皇后陛下が蚕をお育てになった白蘭種(日本の固有種と中国種の掛け合わせ)から作った絹絁を使用する。現在の箏は一般的にテトロンなどの合成繊維絁が使用される。それは強く張っても切れないために、手の速い(細かい)曲を弾きやすく、強い音も安心して出せるためである。絹糸が演奏会でも使用されなくなって久しいために、箏の絹絁の製造自体が後継者不在のため危ぶまれている。(てん・仁智)

曲目／八橋流《菜路》第一歌 八橋流《梅枝》 八橋流《九段》

出演者



菊中央司 きくおうゆうじ

地歌箏曲家。人間国宝故菊原初子師の後継者・菊原光治師に師事。平成14年(2002)から文化庁の新進芸術家国内研修員として今井勉師から平家の指導を受ける。長谷検校記念全国邦楽コンクール最優秀賞、大阪舞台芸術新人賞、大阪文化祭奨励賞、日本伝統文化振興財団賞など受賞。平家語り研究会会員。



日吉章吾 ひよししょうご

生田流箏曲家。東京藝術大学邦楽科卒業。同大学院修士課程修了。手ほどきを生田流箏曲正社大師範の三木千鶴師に受け、のちに、宮城社大師範の金津千重子師に生田流箏曲及び三絃を師事。胡弓を高橋翠秋師に師事。平成26年利根英法記念コンクール最優秀賞受賞。同28年度文化庁芸術祭新人賞受賞。正社社師範。平家語り研究会会員。



てん・仁智 てんじんち

東京藝術大学卒業後、流派に属さない形で、自作自演の演奏会を60回以上日本各地で開催。一方で伝統的な民俗芸能の調査にも参加。2000年頃から八橋流(生田流・山田流の先行箏曲)に入門(～2014年)し、現在まで調査・研究を重ねている。2019年に東洋音楽学会で発表を行うなど、江戸時代の八橋流諸本の解説と音楽的再生も試みている。八橋流箏曲諸本研究会会員。



田中奈央一 たなかなおいち

山田流箏曲家。東京藝術大学邦楽科卒業。同大学院修士課程修了。文化庁新進芸術家国内研修員修了。NHK邦楽技能者育成会 第50期首席卒業。古典・現代箏曲の演奏のほか、声優の堀江一真と朗読音楽劇「声劇和楽団」を主宰するなど、多彩な演奏活動を展開している。東京藝術大学教育研究助手を務め現在、同大学非常勤講師。東京都立三田高校・王子総合高校特別専門講師。中能島会所属。平家語り研究会会員。



志村禪保 しむらぜんぼ

大阪芸術大学教授(音楽工学、尺八)。酒井竹翁、酒井松道に師事。長年、尺八資料の全国調査を続けるとともに、各地の尺八本曲の技法を学ぶ。地無し尺八の研究で博士(学術)号取得。国際尺八フェスティバルほか国内外で講演・演奏、現代音楽作品の初演、Cyber尺八プロジェクト等で活動。近年は神社仏閣での奉納演奏、伝統音楽教育の再構築、尺八博物館<松風文庫>運営に傾倒。CDは浜松市楽器博物館所蔵楽器シリーズ4種類ほか。

Photo:Yunosuke Kawabe

■チケットは楽器博物館、アクトシティチケットセンター、浜松市文化振興財団オンラインショップ(<http://www.hcf.or.jp/shop/index.html>)他にて発売。電話予約は楽器博物館へどうぞ。

■未就学児の入場は遠慮下さい。公演中の写真撮影、録音録画は禁止です。■当日券は残席がある場合のみ発売します。

問合せ／浜松市楽器博物館 TEL.053-451-1128

〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1 www.gakkihaku.jp



Photo:Yunosuke Kawabe

この音色が日本人のDNAを呼び覚ます。

伝統再発見

語り^じの平家・地無し尺八^な・白蘭^{きぬいと}の箏

プログラム

- 平家琵琶^{平家琵琶}…《祇園精舎》
《木曾最期》
《逆櫓》
- 地無し尺八^{地無し尺八}…《明暗真法流》^{あきあんまほうりゅう}《紫鈴法曲》^{むらさきすずほふまがらみ}
《明暗真法流》^{あきあんまほうりゅう}《瀧落》^{たきおち}
《明暗対山派》^{あきあんたいさんぱい}《瀧落》^{たきおち}
八橋流箏曲^{やちばしりゅうそうきょく}…《菜菔》^{なぶ}《第一歌》
《梅枝》
《九段》

演奏

- 平家琵琶…菊央雄司 田中奈央一 日吉章吾
- 地無し尺八…志村禪保
- 八橋流箏曲…てん・仁智

日本古来のDNAを保ち続ける「平家琵琶」「地無し尺八」「八橋流箏曲」は、他の楽器と合奏しない孤高の存在で、近代以降も西洋の影響を受けることがなかった。しかし、それ故に、今日伝承の危機をも迎えている。誇るべき日本の無形文化遺産を私たちはどのように未来に繋ぐのか。演奏を聴くことで日本を「再発見」し、「未来への展望」を考えてみたい。

2021.
5/29(土)

チケット発売
4/4
(日)

開場 1:30pm 開演 2:00pm

アクティシティ浜松研修交流センター
音楽工房ホール

一般 2,500円 学生 1,000円(24歳以下の学生)

【新型コロナウイルスの状況等により、内容の変更または中止となる場合がございます】

■チケットは楽器博物館、アクティシティチケットセンター、浜松市文化振興財団オンラインショップ (<http://www.hcf.or.jp/shop/index.html>) 他にて発売。電話予約は楽器博物館へどうぞ。

■未就学児の入場はご遠慮下さい。公演中の写真撮影、録音録画は禁止です。 ■当日券は残席がある場合のみ発売します。

問合せ / 浜松市楽器博物館 TEL.053-451-1128

〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1 www.gakkihaku.jp